

（公財）パナソニック教育財団今年度第39回特別研究指定校の愛知県岡崎市立葵中学校（内田義和校長、生徒数707人）は10月22日、今年度授業研究協議会を実施した。本格的な研究開始後1カ月の段階だが、すでにタブレットPCなどICT環境が整備され、生徒の授業態度や話し合う力を育成するICT活用の土台づくりが進められていた。

■ICT環境を整備

同校は平成22～24年度に、生徒の思考力・判断力・表現力の育成の研究を進め、教員主導から生徒主体の学び合い・磨き合いの授業への転換を図る実践研究に取り組んできた。

（公財）パナソニック教育財団今年度第39回特別研究指定校

た。22年度には文科省の「ICTの教育活用を推進する実践研究」調査研究校の指定を受け、50台大型ディスプレイ、書画カメラ、ノートPCなどが各教室に配備されている。

今年度からは「学び合い・磨き合いを軸にした思考力・判断力・表現力の育成」が研究主題。同財団の支援でタブレットPC8台、同市教委からパイロット校の位置づけで同じタブレットPCが41台導入された。ただ、タブレットPCと無線LANのアクセスポイントの接続が円滑に進まず、調整に1カ月以上かかったという。

同研究協議会での発表は、本格的なICT活用を開始してから1カ月程度の実践だが、ICT活用で生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図るという目標が明確にされ

積極的に自分の考えを発表

愛知県岡崎市立葵中学校

ていた。

■3部会で研究推進

同校の目指す生徒像は「自ら考え進んで行動し、学び合い・磨き合いによって思いや考えを広げ深められる生徒」「自分の思いや考えを、言語や行動に表すことのできる生徒」とされ、授業研究、教育活動、学習環境の研究3部会などによって研究が進められて

動を円滑に進める情報共有ツールとして活用されている。教育活動部会は、生徒の関わり合う力を伸ばす「あおいタイム」の研究と、生徒会活動などを見直し、生徒の主体的活動を研究している。

学習環境部会は、学習態度を身につける「葵中生10の心得」の普及と、授業に対する生徒の意識を把握する授業ア

ICTで思考・判断・表現力

ている。

授業研究部会は、生徒の主体的な学習活動を展開するための手立てを立案。学習場面によってICT機器の活用を工夫しているのが特徴。基礎

的基本的な知識・技能の習得を高める場面ではICTを資料提供や学習管理ツールとして、思考力・判断力・表現力等を活用する場面では生徒の話し合いや教え合いなどの活

黒板と比較し、共通点を探った。3年生理科単元「自然界のつり合い」では、ニューフ

アンドランド島でオオカミが絶滅した理由を食物連鎖の関係と結びつけて考察し、班ごとに電子黒板を使ってまとめられた考えを発表した。学び合いに欠かせない話し合いの態度や伝え合う力は「あおいタイム」で育成され

ンケートを実施。ICTの環境整備も担当している。

■学習習慣の確立とICTの効果的な活用

公開授業は全学年・全教科等で実施された。1年生理科単元「水溶液」の公開授業では、試験管に入れた水を熱し、溶けた硝酸カリウムの重さを記録。それをノートPCの表計算ソフトに記入して表を完成させた。各班の結果を電子



タブレットPCなどを使いながら積極的に話し合う

慣づける活動としてICTを活用した授業を土台から支えるものだ。

■思考・判断・表現力育成へ
同校の研究を指導している豊田充崇和歌山大学准教授は「生徒は高い学習意欲を持ち、規律のある学習態度をとっていた。

学習習慣を身につける「10の心得」の内容は、▽明るく元気よくあいさつしよう▽正しい姿勢で授業を受けよう▽話し手を見て聞こうなど。授業アンケートはこれらの心得に沿って実施されている。その結果、達成度が低い4項目が選ばれ、強化週間・月間を設け、生徒の意識づけが図られている。これらの取り組みは、授業に取り組む姿勢を習